

ギー国内消費の傾向としては、今後しばらく産業用、輸送用が増加し民生用が減少した後に再び逆転の傾向が起こり、民生用エネルギー需要の増加、産業用エネルギー需要の減少となることによっていわゆる“近代化”の道をたどることになるのではないのでしょうか。

大型の新しい乗用車にごくわずかの“金持ち階級”が悠々と（もちろん運転手付きで）乗っているのを除けば“一般庶民”は旧式の乗用車でもバスでもトラックでも定員おかまいなしにどンドン乗り込み危険きわまりないありさまです。また民生用エネルギー需要の主役である灯油の使い方といえば、市内の露店の大衆食堂でも一般家庭でも局所的な（必要なところのみを照らすという）照

明にそして調理用にと実に“有効に”使っています。そしてまたレストランにおける食事あるいはパーティ等における食物にしても（社会的な身分差があるせいでしょうか）残り物はちゃんと誰かが食べるというふうに実に資源のむだのない生活方法を心得ているようです。人間の労力の省力化あるいは時間の有効利用あるいは快適さなどという観点を無視するとしたら、そしてまた国全体としての資源の有効利用ということを一目的とするならば、インドネシアのような国は現在のわが国と比べて真の意味での“最適化”をはかり、より“オペレーションリサーチ的”に生活しているのではないかと思いつつ2度目のインドネシア訪問を終えました。



## 研究部会報告

### ●経営コンサルタント●

- 第33回 日時：12月4日(土) 14:00～17:00  
場所：東京都勤労福祉会館  
テーマ：「井原西鶴と現代の経営・第2回」  
いままで経営学と言いますと「アチラ物」の焼きなおしが全盛で、縦書きのものは、あまり見むきもされませんでした。しかし良く調べてみますと徳川時代にはすばらしいものが数多くあります。西鶴の「日本永代蔵」とか「西鶴の織留」などはその1つだと思います。西鶴では「知恵・才覚・工夫・分別・始末など」の中心概念やカテゴリーが基礎モデルとなって、経営についての考えや観察が展開され、モノと心とが不即不離・表裏一体となってダイナミックに把握されています。

### ●政策問題●

- 8月合宿ゼミナー  
日時：8月29日(日) 14:00～30日(月) 12:00  
場所：箱根宮の下保養所  
出席者：14名  
演題1：勝田龍夫『重臣たちの昭和史』にみる意思決定  
講師：湊 晋平（武田薬品）  
1月例会に引き続き、今回は下巻にあたる、シナ事変、三国同盟、日米交渉をめぐっての近衛、木戸、陸海軍、外交官たちの置かれた立場と、意思決定プロセスを、他

の資料と照合しながら分析し論議した。こうした局面では、意思決定者の資質と、置かれた場面での与えられた条件によって、選択し得る政策の幅が決まってくる。現在の日本の立場と対比すると興味深い。

演題2：ポリシー・アナリシスにおける2,3のトピック  
講師：今村和男（防衛大学校）

政策科学における価値の役割と、その定量化・計測化について、文献紹介・研究集会報告等をまとめて解説した。基本は共通の座標軸をいかに形成するかにかかると。

- 10月例会 日時：10月16日(土) 14:00～17:00  
場所：三菱総研・会議室(タイムライフビル)  
出席者：7名  
演題：ゲマインシャフト結合の分析（ヒューマン・ウェア）  
講師：富沢健一  
組織体を構成するメンバーの地縁・血縁結合の有効性と実体について、事例を交えて報告しこれを討議した。

- 11月例会 日時：11月20日(土) 14:00～17:00  
場所：三菱総研・会議室(タイムライフビル)  
出席者：8名  
演題：エネルギー政策の3つの視点  
講師：柴田祐作(日立製作所)

Policy Science 2編、および Policy Analysis 1編の文献紹介を通じて、エネルギーと社会・政治・経済の関係にアプローチした。このような複雑な意思決定においては、社会システムの構成者の合意を得るため、価値観の検討：山本七平いうところの“空気の研究”が大切である。“空気の流れ”を知るセンサーとして、科学的手法の有効性が論議された。